

評価委員会総合評価

研究課題名：緊急地震速報高度化のための震度等の予測の信頼性向上技術の開発

評価委員

委員長：古川信雄

委員：小泉尚嗣、田中正之、渡辺秀文、泊 次郎

評価年月日：平成 25 年 9 月 25 日

1. 総合評価

- 非常に優れた研究であった。
- 優れた研究であった。
- 研究を実施した意義はあった。
- 失敗であった。

2. 総合所見

本研究は、東日本大震災で明らかとなった緊急地震速報の課題を解決すべく、当初設定した目標を再設定し、地震直後から適切に課題解決に取り組んだものである。

また、余震・群発活動・連発地震及び巨大地震の震源域の広がりという、これまで扱いが困難とされた問題への対応を大きく前進させ、早期に研究成果を発表し、その成果の業務への導入を通じ、緊急地震速報の信頼性向上に貢献した点は特筆に値する。

とりわけ、全国稠密観測網の利点を生かした波動場の予測や観測値をもとにデータ同化手法を取り入れ、将来の地震の揺れを推定する手法の開発を開始した点を高く評価する。データ同化手法の地震波への適用は世界でも例を見ないものであり、国際的にも注目を集めていることが、発表された論文などによってもよく分る。

また、海底地震計や観測点の地盤特性の補正によって、震源とマグニチュードと震度の推定の予測精度の向上にも成果をあげ、その多くが気象庁の業務にも取り入れられた点も評価できる。

以上のことから、本研究は、適切な目標設定と研究体制のもと効率的に進められ、当初想定した以上の成果が得られたほか、気象庁業務への反映により、地震災害の軽減という社会的意義を十分に果たした、非常に優れた研究であったと評価する。